

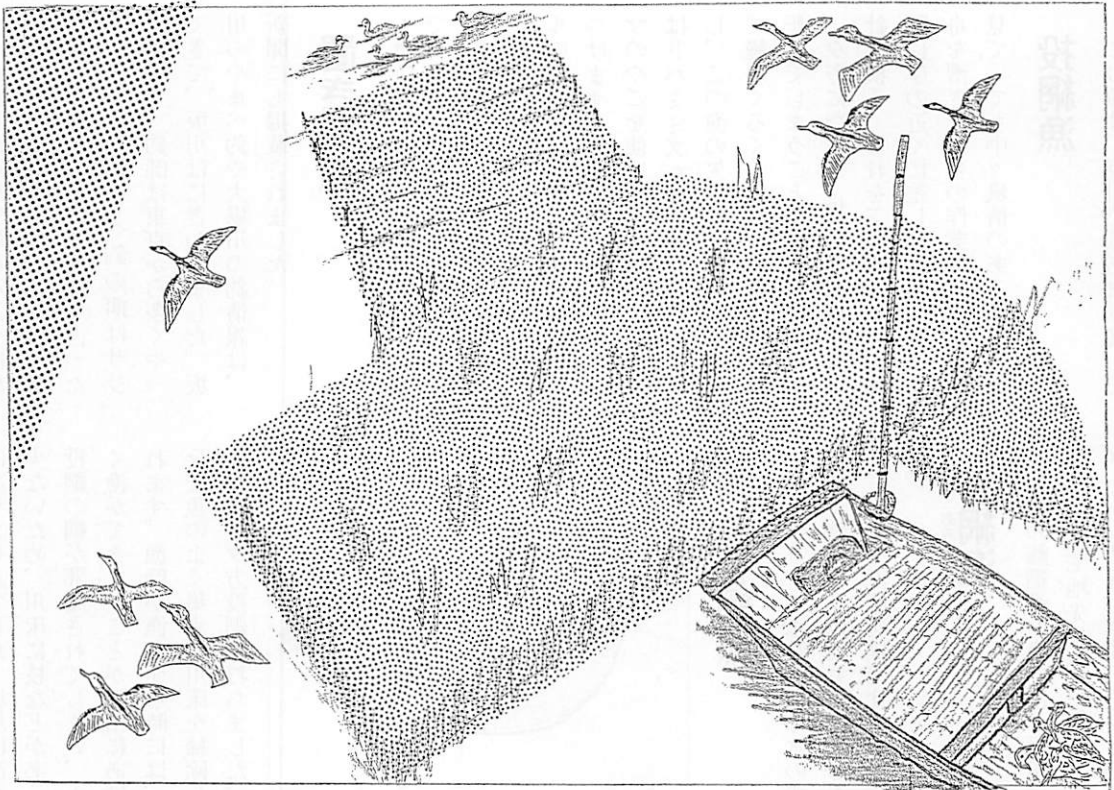
# みず 水

# ぐるま 車



(財)新松戸郷土資料館館報

第15号



財団法人 新松戸郷土資料館

〒270-0034 千葉県松戸市新松戸3-27

新松戸市民センター(三階)

電話 047-344-1909  
FAX

発行年月日 平成14年3月末日

もくじ

鴨猟……表紙

## 坂川水系の漁と猟

- ◇おっかぶせ漁・やまべ釣漁  
置き針漁・投網漁・四つ手網漁  
鱻網漁・地獄網漁・大鷓鴣……… 2
- ◇鴨猟・タカボ漁・天保銭網漁  
田鴨猟・鶺鴒……… 3
- ◇日誌抄・ご案内・編集後記……… 4

# 坂川水系の

## 魚と獺



置き針漁

坂川水系の魚は、魚の習性を利用して漁で春の産卵期、水田の用排水期、雨期、冬眠期などに盛んに行われました。

これらの魚は、昭和三十年位までどこにでも見られました。

### おつかぶせ魚

産卵の為に水田の浅瀬にいる鮒、鯉、鯰などを底の抜けた策をかぶせて、手で取る魚です。水の少ない頃の魚で、時には大物を掴み取ることができる、年一回の楽しみな魚でした。

### やまべ釣魚

坂川の水が温みだすと、朝夕にや

まべが水面から飛び跳ねるようになります。雨の降る前はとくに多く飛び跳ねるので、それで天気をつたりしました。やまべ釣の餌はサシ(蛆)で、釣師は東京から多くやってきて、坂川はにぎわいました。坂川のやまべ釣や大場川の釣情報は、新聞にも掲載されました。

### 置き針魚

水が温む頃から水が冷たくなるまでの魚で、プロの魚でした。

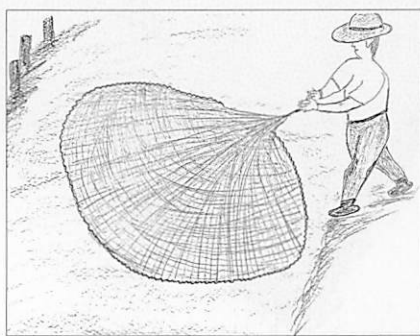
約二メートル位の篠竹の(鉛筆ほどの太さ)三分の一の所に一メートルの風糸をつけます。鰻針には餌をつけます。(餌は四、五月頃はヤマのやごを使い、夏から秋にかけてはドバミミズを使用しました。)しかし、この魚の欠点は、逃げようとして鰻がくるくる回り、風糸に絡まり死んでしまうことでした。

夕方になると、舟に二、三百本置き針を積み、これを三、四メートル間隔に岸の近くに差し込んでいきます。舟を漕ぎながらの作業で、遠くから見ていても中々風情のある魚でした。

### 投網魚

この魚は、坂川ではあまり盛んで

はありませんでした。坂川は流れが少ないため、川床に枝などがあると投網の網が邪魔されてしまい、上手く魚ができないことが理由にあげられます。漁師が魚をする時には、自分で魚のよく集まる川床を掃除して、餌を撒き夕方投網を打ちました。



投網漁

### 四つ手網魚

雨上がりや、水路などの水の濁りのある時に、子供たちがよくした魚で、小魚や泥鰌を網ですくう魚でした。

### 鮎網魚

坂川の鮎網魚の漁場は、坂川橋上流の石崎宅地先、小僧弁天下流百メートル付近、六間川の四ヶ所が漁

場でした。鮎網魚は用水期後の落水期に合わせた漁でした。水田や池などの水位が一気に下がるので、魚が坂川本流に集まって江戸川に下ります。それを一網打尽にして取る魚でした。昼間は小魚ばかりが取れ、夜になると鰻が多く下るので、夜を徹しての魚で、プロの魚でした。魚の中では一番大きな仕掛けで、漁師の家の近くで出来た魚でした。

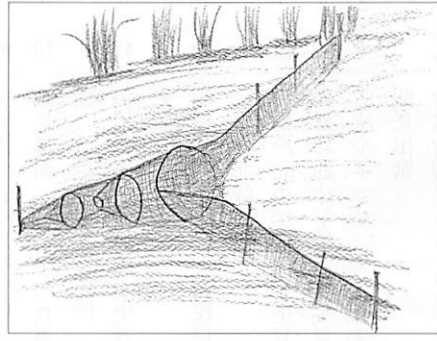
### 地獄網魚

年間を通じて行われた魚でした。地獄網は、坂川の川幅に合わせたものや、添堀または水路に合わせたものなどの大小の網がありました。魚が上る時は、下流に向かって仕掛けて魚が下る時は、上流に向かって仕掛けて魚をしました。夕方に仕掛けて朝上げる魚でした。

### 大鷓鴣

この獺は、大鷓鴣がよく取れた獺でしたが、昭和のはじめ頃には禁止されました。獺期は秋が主で一メートルほどの竹を堀や排水路に差し、同じ長さの糸をつけます。その時竹が見えないように水面ぎりぎりに糸をつけます。蝗を刺した針をつけ、ト

チカガミなどの水草の葉の上に乗せ、浮かしておきます。それがこの罾のこつで、仕掛けは夕方にして置き、翌朝早く見に行きます。たまに鴨がかかることもありました。

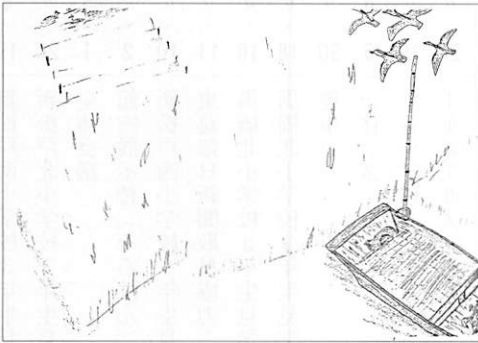


地罾網魚

## 鴨罾<sup>かも</sup>

鴨罾は、縄罾と網罾がありました。罾期は戦前まで、九月十五日から三月末でした。下谷の水田はいつも一面に水がありました。十一月ごろから濁水となるため、本格的な鴨罾の時期に入ります。この罾に欠かさないものに罾鴨があります。罾鴨は、藁と杉の葉で作ります。仕掛けは、太さ四、五ミリメートル、長さ二十メートルの麻縄を止杭に固定し、も

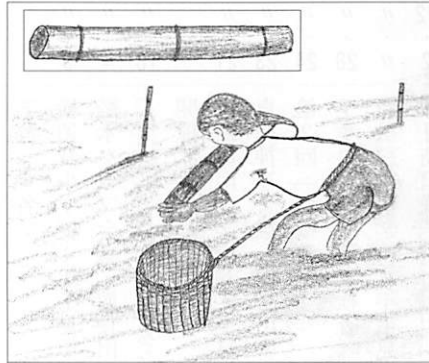
う一本の止杭には、鴨がかかった時に糸が上手く外れるように細い篠竹を輪にしたものを掛けます。麻縄には藁を塗りつけ水面より十五、六センチメートルの高さに張り、同じものを二メートル間隔に五ヶ所仕掛けます。風上に罾を五、六羽置き、罾師は風下の田舟の中に横たわり、籐を被り身を潜めて待ちます。鴨は集団で行動するので、罾の鴨がいるとそこは安全と思ひ、羽を大きく広げ下降します。すると羽が縄に触れ、篠竹から輪がはずれ、鴨に絡みついて飛び立てなくなり、一網打尽となります。一晩で田舟に山盛りを取れた事もあったと言ったことでした。



鴨罾

## タカポ漁 (竹筒漁)

鰻を取る漁で、孟宗竹を一メートルほどに切り、節を取り川床に仕掛けて置きます。取る時は両側を手で抑えて引き上げるだけで、簡単に鰻がとれた漁でした。



タカポ漁

## 天保銭網魚

プロの冬場の漁で、氷の張っている時の朝早い漁です。天保銭の形に似た一メートルほどの大きな網を使います。舟の先に立ち、天保銭網を魚の居そうな深い所に張ります。もう片方の手に竿を持ち、竿で魚を脅し網に追い込むもので、舟を上手く操れないと出来ない漁で、藁に隠れている大型の鰻を沢山取ることが出来ました。

## 田鴨罾<sup>たしぎ</sup>

これは十一月から二月までのプロの罾でした。網の高さは二メートル、長さは三〇メートルほどのもので、網目の大きさは六センチメートル角でした。糸は尻糸ほどの太さで、上下の糸は少し太めのものを使用しました。一段式で上下の糸はゆるみをとります。すると網は袋状になり、竹竿で左右を結びます。それを風方向にむけてピンと張ります。そして上下の網は弛めるといことがこつでした。そのような網を五、六枚続けて張り、近くで鴨のかかるのを待ちました。

## 鶺鴒<sup>つばす</sup>

冬になると鶺鴒も多く飛来してきました。早稲種を刈り取った後の櫛田(ひつじだ)に、二番穂が出ます。その二番穂が多く出た水田は、鶺鴒の絶好の隠れ家であり、住み家でした。鶺鴒は人をあまり恐れない鳥で、知らずに近寄り過ぎて、両方共驚くこともありました。プロはその習性を利用して、大きな玉網で鶺鴒の隠れている所を見つけ、上から玉網を被せて取ります。しかしあまり効率のいい罾ではなかったようです。

# 日誌抄

平成十三年

1・10	全体会議
・12	上本郷小学校3年生見学
・14	館長講演「花瓶作り」 (松戸子ども劇場)
・23	館長講演(上本郷小学校)
・25	小金北小学校3年生見学
・31	幸谷小学校3年生見学
2・1	新松戸南小学校3年生見学 全体会議
・7	横須賀小学校3年生見学
・10	館長講演「戦時中の食事体験」(松戸市市民会館)
・17	鴨川吉尾公民館郷土史教室 来館
・19	館長講演「小金と新松戸」 (松戸北郵便局)
・21	新松戸北小学校3年生見学
・23	新松戸西小学校3年生見学
3・1	清流ルネッサンス21会議 館長出席
・7	全体会議
・8	東京史跡旧跡探訪会来館
・22	朝日新聞取材協力
・27	館報「水車」14号発刊 理事会
4・4	全体会議

4・19	新松戸南小学校3年生見学
・27	新松戸北小学校3年生見学 全体会議
5・1	館内展示替(そろばん)
・2	新松戸西小学校3年生見学
・10	東葛毎日新聞取材協力
・11	馬橋北小学校3年生見学
・16	馬橋北小学校3年生見学
・18	馬橋北小学校3年生見学 理事会
・30	全体会議
6・6	幸谷小学校3年生見学
・19	千葉県生涯大学生来館
・20	防災訓練参加
・21	館長講演(新松戸南小学校)
・22	NHK文化センター柏教室 来館
・23	松戸市立博物館市史編纂会 議・館長出席
・28	松戸市河川愛護団体視察 館長出席
7・4	全体会議
・22	第18回夏休み子供歴史教室
・23	「
8・1	全体会議
・29	テレビ東京取材協力
・5	子供歴史教室再会日 全体会議
10・3	千葉大学留学生来館 全体会議

10・5	北部小学校先生来館
・6	「新松戸の開発を担った人々」撮影 全体会議
・10	第1回「南極教室」
・13	古ヶ崎南小学校4年生見学
・17	北部小学校3年生見学
・18	「葛飾区郷土と天文の博物館」学芸員来館
・20	「
11・7	全体会議
・8	第五中学校2年生職場体験 学習(6名)
・9	横須賀小学校4年生見学
・18	酔水クラブ会議・館長出席 「松戸鯨の食文化を守る会」 開催
・21	新松戸南小学校6年生見学
・23	東郷神社大祭・館長出席
・24	第2回「南極教室」
・28	千葉県教育庁業務検査
・2	新松戸南小学校6年生見学
・4	本土寺紅葉狩り
・5	研修「江戸川船下り」 全体会議
・7	「新松戸の開発を担った人々」ビデオ完成
・25	第3回「南極教室」極地研究所見学
・27	仕事納

## 〈資料館利用のご案内〉

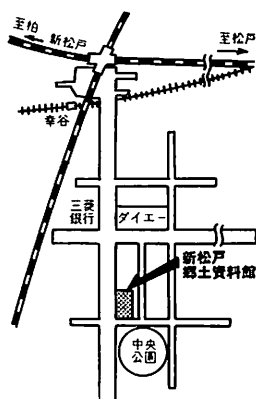
▽開館日 毎週水曜～日曜日  
▽時間 10時～16時(ただし、入館は15時30分迄)

▽入館料 無料

▽所在地 松戸市新松戸3-1-27

▽電話 新松戸市民センター3階

FAX 047・344・1909



## 編集後記

今号15号で、坂川水系の漁・猟・魚具が終了しました。現在ではほとんどの川が護岸工事をされているため、このような魚取りの風景は見られなくなりました。

近來では坂川水系の氾濫もなくなり、人々は安心して暮らすことが出来るようになりましたが、「春の小川」の世界は遠くになりました。